



# HIV/AIDSの 職場での正しい理解に向けて

「職場におけるHIV/AIDS  
～陽性者スピーチと模擬労使交渉～」を開催

JEC連合の皆さん、連合を通してJILAF（国際労働財団）に派遣されている、井上です。先日は、機関誌2007年10月10日号で、JILAFについて紹介させていただきました。その中でも少し触れましたが、私はJILAFでエイズ関係の事業も担当しています。具体的には、途上国の労組において、仲間同士でエイズに関する正しい知識を指導することのできる、トレーナーを育成するプロジェクトに着手しています。

一方、日本国内に目を向けてみますと、労働組合においてHIV/AIDSはそれほど積極的に取り上げられていません。確かに、日本において生存するHIV陽性者・AIDS患者数はUNAIDS（国連合同エイズ計画）によって、2005年に約17,000人と推定されており、決して多くはありません。しかしながら、HIVの新規感染者は毎年増え続け、2006年度の厚生労働省発表では952件と、4年連続で過去最高を更新しています。すなわち、日本でもこの問題を軽視していると、今後深刻な状況に陥る可能性もあります。そのため、NGOと労働組合が協力して活動している「NGO・労働組合国際協働フォーラム」（JILAFはNGO側メンバーとして参加）の「HIV/エイズ等感染症グループ」に私は参加して、国内向けの活動も行っています。

このたび、機関誌で連載の場を持たせて頂きましたので、今後はこういった国内外の活動を、JEC連合の皆さんに毎月お伝えしていこうと思います。どうぞよろしくお願ひします。

さて、第1回の今回は、2007年12月12日に総評会館で実施されたイベント「職場におけるHIV/AIDS～陽性者スピーチと模擬労使交渉～」(主催:「NGO・労働組合国際協働フォーラム」)の報告をします。連合加盟労組役職員を中心として、総勢53人参加の盛況なイベントとなり、JEC連合からは松下雅文中央執行委員(太平洋セメ

ント労組中央執行委員長)、辻浩二JEC総研政策部長、花岡紋乃情報・調査センター副部長の3人にご出席頂きました。また、わたくし井上は司会を務めました。

まず、オフィス勤務中の陽性者の方に、治療と仕事との両立の難しさを語って頂きました。エイズ発症を抑える薬を服用しなければならないため、その副作用で睡魔に襲われるなど、勤務に影響が出る場合があるようです。幸い、この陽性者の場合は上司の理解が得られていて、休暇の取得等にも柔軟に対応してもらえるようですが、職場によっては難しい場合があり、今後労組としての取り組みが必要となる可能性があります。その後、グループに分かれて、みなさんの組合に陽性者がいた場合と仮定して、会社に対する要求案を話し合い、模擬労使交渉まで実施しました。



模擬交渉で組合側として意見を述べる松下委員長

参加者からは、プライバシーの保護、研修会の実施、就業サポートシステムを労使協定化する、など幅広い活発なご意見が出され、今回のイベントは大成功だと感じました。こういった陽性者によるスピーチや、模擬労使交渉は、労組の新役員研修などにも組み込むことも可能だと思います。ご関心があれば、ぜひ、井上までご連絡ください。

(e-mail:tinoue@jilaf.or.jp)

【特別中央執行委員（JILAF派遣）井上友孝】

## 【おわび】

前回のパズル「まちがいは7つ」について、事務局準備の正答は「B・E・F・I・N・O・Q」でしたが、ソファの背もたれの部分が他のブロックにまたがるため、「J」「L」もまちがいになります。大変申し訳ありませんでした。今回ご応募いただいた分は全員正解とさせていただきます。

## パズル第57回正解と当選者

正解: B・E・F・I・N・O・Q 応募総数160通

当選者 新川ゆかり(石原産業) 譲原雪子(富士フィルム)  
湯川雅章(クレハ) 大野雄成(東ソー)  
横井正弘(イビデン) 柳瀬和則(ケルヒクテック)  
向山明宏(ブリストルマヤーズ スイフ) 大内由紀(日本化薬)  
児玉正(関西ペイント) 若月美奈(コスモ石油)

